

今の自分を見つめて 夢と希望をふくらませよう

—第4学年「1/2成人式をわたしたちの手で」の実践から—

川上公範・森本泰史・川口万里・向井路彰

1 はじめに

本校では、総合的な学習「人間領域」において、身近な社会の中で互いのよさに気づき、自分らしく生きていく子どもをめざしている。その領域の第四学年の単元の一つとして、1/2成人式を行っている。

今年度、本単元では、3つの活動を行った。第一は、自分をみつめていく活動として「自分史づくり」、第二に友だちとのかかわりを深めていく活動として「自分史発表会」、最後に夢や希望をよりふくらませていく活動として「1/2成人式」の計画・準備・実施である。これらの活動を通して、10才になった(なる)自分を見つめていきながら、未来への夢や希望に胸をふくらませ、生きる喜びにあふれる子どもに育ててほしいと考えた。また、周囲の大勢の人々とのかかわりを大事にする心や態度をより一層培っていきたいと考え、本単元を設定した。

2 実践の概要

自分史づくりでは、「過去」「現在」「未来」の三部構成に基づいて、子どもが各部で表していきたい内容を、自由に選択・決定できるようにした。そして、必ずコメント(それについての考えや思い、感想)を書き込むようにし、思いを表現していくことを大事にするよう、支援をした。子どもたちは、自分史に残していきたいことを、絵や詩、文、歌など様々な表現を活用してまとめた。

「現在」の部分では、今の自分の興味・関心など、プロフィールを中心にまとめた。「過去」の部分では、自分が生まれてから4年生になるまでの様子や自分の成長の記録をまとめたり、思い出を綴っていった。さらに、「未来」では、将来の自分を予想したり想像したりする場を通して、将来への夢や希望をふくらませた思いを書き留めた。また、自分史発表会や1/2成人式の記録、自分タイムで取り組んだ記録やその成果も綴じていった。

思いを込めて創り上げていく、世界でただ一つのこの本は、10才という節目を迎えた子どもたちにとってかけがえのないものとなるはずである。この「自分史づくり」を通して、子どもたちは、命の重みを実感し、自分の存在の大切さに気づくことができるであろう。この活動は、1/2成人式に向かっていく過程において最も重要な活動であるといえる。

今の自分を見つめて 夢と希望をふくらませよう

—1/2成人式をわたしたちの手で—

【活動計画】

- ① 10月25日(水) 3・4校時
オリエンテーション
☆これから取り組む1/2成人式について考えよう

みんな自分史をつくりたいぞ
めあてと見通しをもとう

10月25日～11月20日

◎自分史づくり

☆じっくり自分を見つめよう

- ② 11月22日(木) 1校時
自分史発表会
☆完成した自分史の中から、発表したい部分を選んで、発表しよう
☆友だちの発表を聞いた感想をお祝いカードに書いて、交換しよう

- ③ 11月
みんな成人式をしたいぞ
計画を立て、準備していこう

- ④ 12月17日(月) 2校時
1/2成人式
☆おうちの人を招待して、みんなで1/2成人を迎えたお祝いをしよう
☆ひとりひとりの思いを大切にしながら、みんなで協力し、
「1/2成人式をわたしたちの手で！」



次に、大勢の人と1/2成人を迎えたことを共に喜び合う場も大切であると考えて、自分史発表会と1/2成人式の二つの場を設定した。

まず、自分史の完成時に、各自がみんなに発表したい部分を選んで、互いに聴き合う「自分史発表会」を行った。そこでは、お互いをより知り合い、認め合い、ともに高まり合おうとする気持ちをもてるようにすることを大切にされた。また、式に向けて、互いに祝う気持ちや喜び合う雰囲気を高めるために、発表の気づきや感想を書いたお祝いカードを交換する活動も行った。

「1/2成人式」では、子どもたちが企画・準備して、保護者とともに互いの成長を喜び合う式を行うことができた。企画の際には、一堂に会する子ども・保護者・教師にとって、一生の思い出となる心に残るひとときを過ごせる式にしようと、話し合った。そして、自分たちの取り入れたい内容でプログラムを組み、役割分担をして準備に取りかかっていった。

(1) 活動のねらい

- ◎自分について調べたりまとめたりする活動を通して、自分を見つめ、自分の生き方を考えるようにし、より深く自分や友だちのよさを理解したり、認めたりすることができる。
- ◎みんなで自分たちの成長を祝い喜び合う活動を通して、互いの成長や周囲の大勢の人々の支えに気づきながら、将来への夢や希望をもつことができる。

(2) 活動の概要と支援

活 動	支 援
◎第1次：2時間 (学年) オリエンテーション (学級) オリエンテーション (学年で) ○1/2成人式とは何か、その意義を考える。 ○学習の見通しを持つ。 ○10才の頃の自分紹介 (森本T・・・その頃好きだった野球のアニメの絵) (川口T・・・小学生の時の写真) (川上T・・・当時つくった替え歌) (向井T・・・6年生の時に書いた自分史の実物) ○自分史の構成やテーマ紹介 (学級) ○自分史づくりの見通しを持つ。 ○テーマを選び、表現したりまとめていきたい内容を決める。	・成人式の意義を知り、活動への意欲をもてる場を設定する。 ・具体的な活動日程を提示する。
◎第2次：8時間 (学級) 自分史づくり <現在>「10才の自分」 ☆世の中とのかかわり <過去>「生まれてから」 ☆家族とのかかわり <未来>「未来を描こう」 ☆自分とのかかわり ○各自が選んだテーマに沿って、取材したり資料を集めたりして作成する。 <現在>今考えていること、興味関心、自分のまわりの人々、出来事など <過去>生命誕生の神秘・喜び、成長の過程、思い出、家族への感謝など <未来>なりた職業、将来の自分像、成人を迎えた自分への手紙など ○自分史を完成させる。	・構成など、具体的な自分史の内容を考える場を設定する。その際、子どもが表現したい内容を自由に選べるようにする。 ・ワークシートを多用し、好きなものを選んで使えるようにする。 ・各自の活動状況を見守り、自分史の作り方、工夫のしかたについて適宜支援する。 ・随時ふりかえりの場を設定し、活動の意欲と質が高まっていくように肯定的な評価や助言を行う。
◎第3次：2時間 (学年) 自分史発表会	・よりよい表現について考える場を設定する。 ・お互いのことをより深く知り合うとともに、発表や表現のよさを認め合うよう声かけをする。 ・発表の様子を写真に撮っておく。 ・お祝いカードを用意する。
◎第4次：3時間 (学年) 1/2成人式 ふりかえり	・子どもの発想が生かされたプログラムとなるよう支援する。 ・自分たちの力で式が実施できるよう支援する。 ・成長の喜び、感謝、夢や希望といった気持ちがかもてるよう声かけをする。 ・もてる力を出し合い、心に残る活動になったかふりかえり。
◎プログラム作り、役割分担、招待状づくり、飾りづくり等、準備をする。 ○1/2成人式を実施する。	

3 自分を見つめる中で、人とのかかわりの大切さに気づいていった子どもたち

オリエンテーションで教師が自分史の紹介をした時、子どもたちの目が輝いた。昔の写真を見て、約20年前の自分史の実物を見て、誰もが通っていく道を自分たちも歩んでいることに気づいた。10年生きてきたことの重みについて考え始め、「人生」を実感としてとらえ始めた様子が見受けられた。

一冊のスケッチブックを受け取ったその日から、それを自分史としてとても大事に扱っている様子が伺えた。今まで誰にも言ったことのない思いを綴ったり、この学習で初めて考えてみたことを書いたりしていた。写真は、数枚を厳選し、必ずエピソードを添えて思い出として残すようにもした。この自分史づくりの過程では、大人になって子供時代を懐かしく思う感じとはどんな感じかを、教師から折にふれ子どもたちに伝えていくようにしたので、何を残していけば自分にとって価値があるのかをよく考えて、子どもたちは慎重に選択していくことができていた。今の自分のいとおしいと思うものを探す過程において、自分の中にもっている価値や、自分のものの見方考え方を少しずつ整理し明らかにしていくことができたようである。

さらに、書きまとめていく過程で、子どもたちは、そこでかかわってきた多くの人々を思い浮かべ、その人たちへの思いもしっかりとふくらませていくことができていた。第4学年の児童は、第2学年の生活科で、自分が生まれてから現在までの成長の様子をたどることを通して、生命の誕生について知り家族や周囲の人々に感謝したり、意欲をもってこれからの生活ができるようにしたりする、という学習経験があり、それを生かしてさらに深めることができたのは、大きな収穫であるといえる。

互いに1/2成人を喜び合う中で、10年の自分の歴史をまとめ、さらに続けてそれを築いていこうとする意欲や、未来への夢を大きくふくらませたり、一人一人の存在のかけがえのなさを実感したりすることのできたこの実践は、大変有意義であった。

このように、本単元では、子どもの実態や願いに応じた様々な活動を創意工夫しながらねらいに迫り、さらに各教科における学習や生活とも相互に関連、発展しながら学習を深めていくことができた。今後も、子どもたちの瞳の輝きを大切にしながら、継続して取り組んでいきたい。

